

山形保険医新聞

Yamagata medical practitioners newspaper

発行
山形県保険医協会
〒990-0043 山形市本町二丁目1の2フコク生命ビル
電話 023 (642) 2838
FAX 023 (642) 2839
購読料 1ヶ月 500円
印刷 コロニー印刷
第497号

4月号 TOPICS

春のPR号

今月号はまだ会員になられていない先生にもお送りしています

2020年度 学校健診後調査 コロナ禍で肥満・視力低下

協会は2月〜3月中旬にかけて、県内の全412校の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を対象に2020年度学校健診後治療調査を行った。

調査は19年度にも行っており、学校健診で受診とされても医療機関を受診できていない子どもやむし歯が10本以上あるなど口腔崩壊の子どもの存在、健康状態の二極化などの問題が明らかとなった。

今回は新型コロナウイルスによる影響も設問に加え調査したところ、昨年の回答率7・8%を大きく上回る36・2%、149校から回答があった。この問題への関心の高さがうかがわれた。

未受診率 小学校3割、中学校5割、高校7〜8割
小学校では、未受診率は内科と歯科がともに37・6%と高かった。中学校では眼科の未受診率が56%で最も高く、次いで歯科(52・8%)。公立高校では歯科(77・9%)、耳鼻科(77%)、私立高校では歯科(86・9%)、眼科(82・1%)の順だった。

特別支援学校では、眼科61・9%、歯科53・2%。「歯科医院への受診を嫌がる児童生徒が複数いる」

「発達障がい等で受診に抵抗があり、暴れたり大声を出しても対応可能な歯科医院が地域にできればと思う」などの声が寄せられた。全体的には年齢が上がるにつれて未受診率が高く、歯科、眼科、耳鼻科などは未受診率が高い傾向がうかがえた。

「発達障がい等で受診に抵抗があり、暴れたり大声を出しても対応可能な歯科医院が地域にできればと思う」などの声が寄せられた。

低受診率の要因は子どもの健康への理解不足や無関心、受診率が低い原因として、「保護者の子どもの健康への理解不足」に次いで、「共働き」、「無関心」を挙げる学校が多かった。

県内では6割以上の市町村が18歳まで医療費無料となっており、経済的困難などの要因よりも、保護者の意識や仕事で受診の時間がとれないことが要因となっている。自由意見からは部活動や塾、仕事の方が優先になっていることがうかがえた。

前回調査でも同様の意見が寄せられており、学校側も個別面談時に受診勧奨を行うなど工夫しているが、この問題を広く知らせ保護者への啓蒙など社会全体の取り組みがなければ受診率向上は難しいと思われる。また、今回はコロナ感染拡大による受診控えも

受診率低下の原因として挙げられた(小学校26・6%、中学校26・3%、公立高校33・3%、私立高校20%)。今年度はプール授業がなく、耳鼻科や眼科受診勧奨の切り札がなくなつてしまったとの声や、学校健診の時期が遅くなったため受診率が低かったという声もあった。

新型コロナウイルスによる影響
新型コロナウイルスによる影響は、「あった」との回答が小学校52・1%、中学校34・5%、公立高校28・6%、私立高校20%、特別支援校25%だった。

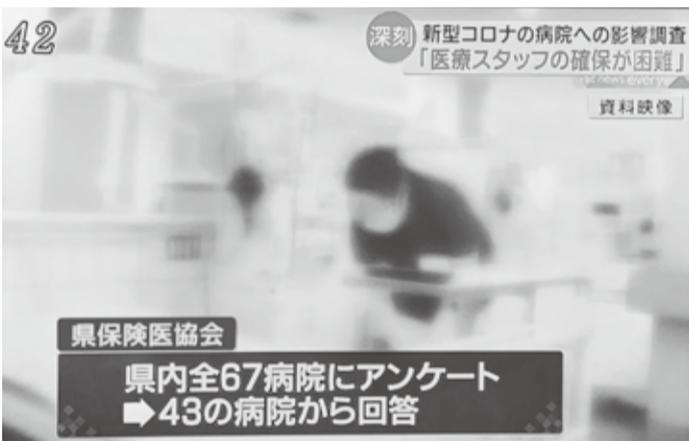
「一斉休校の影響で「テレビやゲームなどのメディアに触れる時間が多くなり視力低下を招いた」、「ながら食が増え、肥満傾向が増

加した」などの指摘が多かった。一方で、一斉休校で部活動も休止となり医療機関を受診する余裕が生まれたためか、「むしろ前年度より口腔疾患、視力異常とも減少した」との声もあった。

病院施設基準 コロナ影響調査 県内ニュースでも放送

協会は1月に実施した県内病院施設基準コロナ影響

調査の結果を報道各社にリリースし、3月9日に新聞、県内ニュースやラジオでも放送された。コロナの影響で医療スタッフの確保が困難となつており、経営の悪化や職員が強いストレスにさらされている実情を伝えた。協会は深刻な影響を受ける病院への支援を求め、3月19日に県選出国会議員、厚生労働大臣へ要望書を送付した。



県保険医協会
県内全67病院にアンケート
43の病院から回答

春のPR号

ぜひご入会ください

2面 会員の声 私も入会をおすすめします

6面 頼れる共済制度のご案内

待合室キャンペーン ご協力ありがとうございました クイズハガキに県内5,067通の応募



75歳以上窓口負担2割化反対署名ハガキもよろしくお願ひします。

署名ハガキのお申込み ▶ TEL 023(642)2838

寄せられた事例(小学校)
○コロナ感染の不安で外に出られず不登校になっていく児童が1名おります。その他肥満増加や登校しぶり傾向児童が今年度は急増しました。

○学校再開時に、もともと肥満の児童もさらに肥満度が高くなった。
○感染予防のため、保健室利用に制限が設けられ、利用しない人は行っていない所になってしまいました。心の健康が軽視されている状況です。
○ステイホーム後、再開した時すぐに視力検査を行ったが、急激に下がった子が高学年にとっても多く、「机を前に」と医師から指示を受けたが多すぎて担任が困った。



総務省幹部らの「接待漬け」が、明らかに、菅義偉首相の長男・正剛氏が勤める放送事業会社「東北新社」との関係が問題になっていきます。報道によると、第一次安倍政権で総務相になった菅氏は、いきなり長男を秘書官に抜擢したそうです。この長男はミュージシャン志望で政治経験もありませんでした。その後、秘書官を辞め、父親の口利きで放送事業会社「東北新社」に就職しました。「総務省担当」として動いていたようです。通常、監督官庁の局長クラスなどは、いくら企業が頑張ってもなかなか会う事が出来ないそうです。ところが、菅氏の長男は何度も料亭で接待していて、これが出来たのは、総務行政に大きな影響を持つ菅首相が、長男の後にいたからと思えます。菅氏は「改革派」「たたき上げ」「庶民宰相」と言われてきました。このように見えてきました。この様な事は、「森友・加計学園」疑惑と同じ構造で、安倍晋三首相が友達や支援者に便宜を図った構図が、いまだに繰り返されているようです。これから、志の高い官僚を目指す方々が、入省してきます。その方々にどのように説明するのでしょうか。コロナ禍で感染症に気を付けて毎日緊張感を保ちながら仕事をしている医療従事者からすると、とても許せない気持ちになるのではないのでしょうか。